

|                |   |                |                         |
|----------------|---|----------------|-------------------------|
| 授業科目名          | 子育て支援   | 大学名            | 作新学院大学女子短期大学部           |
| 科目区分           | VU連携講座  | 開講時期           | 後期（9月15日～1月22日）         |
| 学部・学科等         | 幼児教育科   | 曜日             | 未定                      |
| 必修・選択区分        | 選択  | 時限（時間）         | 未定                      |
| 標準対象年次         | 1学年以上   | 授業形態           | 演習                      |
| 単位数            | 1単位   | 授業会場           | 作新学院大学 講義室              |
| 担当教員名          | 坪井 真  |                |                         |
| 電話番号<br>（代表者名） | 028-667-7111（大代表）   | e-mail<br>アドレス | tsuboi@sakushin-u.ac.jp |
| オフィスアワー        | 特に設けず、e-mail や電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。  |                |                         |
| 授業の概要          | <p>&lt;授業の目標及びねらい&gt;<br/> 保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。<br/> (1)保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。<br/> (2)保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、考察することができる。<br/> (3)主体的な姿勢で予習・復習およびアクティブラーニングに取り組むことができる。</p> <p>&lt;前提とする知識・経験&gt;<br/> 子ども家庭福祉やソーシャルワークの知識・経験があれば、本科目の理解が深まる。</p> <p>&lt;授業内容と具体的な進め方&gt;<br/> 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（演習プログラム）により、保育の専門性を基盤とした保護者に対する相談援助の実際や特徴、子育て家庭の多様なニーズに即した支援内容・方法・技術（ソーシャルワークの応用など）を学び、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を理解します。</p> <p>&lt;授業計画&gt;<br/> 第1回 子どもの保育とともに行う保護者の支援<br/> 第2回 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成<br/> 第3回 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解<br/> 第4回 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供<br/> 第5回 保育者が取り組む子育て支援の展開①：支援計画の策定と実践・記録<br/> 第6回 保育者が取り組む子育て支援の展開②：連携・協働と社会資源の活用<br/> 第7回 前半の確認テスト<br/> 第8回 保育所における支援<br/> 第9回 地域の子育て家庭に対する支援<br/> 第10回 障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援<br/> 第11回 特別な配慮を要する子どもと家族（保護者など）に対する支援<br/> 第12回 要保護児童と家族（保護者など）に対する支援<br/> 第13回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解<br/> 第14回 後半の確認テスト<br/> 第15回 総括</p> <p>&lt;教科書・参考書・教材と入手方法&gt;<br/> 小原敏郎・他「演習・保育と子育て支援」（みらい ¥2,200+税）</p> <p>&lt;成績評価法&gt;<br/> ①定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。（全体の50%）<br/> ②演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。（全体の50%）</p> <p>&lt;教員からのメッセージ&gt;<br/> 育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を身につけてください。</p> |                |                         |